

令和5年度（令和4年度事業対象）
教育委員会点検・評価報告書

令和5年11月

様似町教育委員会

目 次

1	はじめに	1
	(1) 点検・評価の概要	
	(2) 点検・評価の対象	
	(3) 点検・評価の方法	
	(4) 点検・評価結果の構成	
2	教育委員会の活動状況	2
	(1) 教育委員会による点検	
	①令和4年度教育委員会定例会・臨時会・書面決議	
	②令和4年度教育委員協議会	
	③令和4年度総合教育会議	
	④令和4年度学校訪問・行事関係等活動状況	
	(2) 項目別点検	
	①教育委員会会議等	
	②学校訪問並びに教育施設訪問について	
	③委員研修会への参加	
3	「令和4年度教育行政執行方針」に基づく施策の執行状況の評価	8
	(1) 総評	
	(2) 令和4年度の教育行政執行方針に基づく施策の評価	
	①幼児教育及び児童福祉の推進	
	②学校教育の推進	
	③社会教育の推進	
	④生涯スポーツの推進	
4	外部評価委員名簿	40

1 はじめに

(1) 点検・評価の概要

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第26条において、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務づけられています。

このことから、様似町教育委員会では、次のとおり報告書を作成いたしました。

当委員会では、この度の点検・評価の結果を次年度以降の事務改善等に活用し、教育施策の推進に努めてまいりたいと考えておりますので、町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(2) 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、令和4年度教育行政執行方針に掲げられた項目に基づいた主な施策・事業としています。

(3) 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、施策・事業の実施状況を明らかにするとともに、今後における課題と対応方向を示します。

(4) 点検・評価結果の構成

①令和4年度の領域

点検・評価の対象を「令和4年度教育行政執行方針」の項目ごとに点検・評価しています。

②取組の概要

令和4年度に実施した主な取組内容を示しています。

③実施状況

各取組の実施状況を記載しています。

④評価

令和4年度の取組の実施状況などを踏まえ、取組に対する内部評価と外部評価を行っています。

⑤今後の課題と対応方針

今後の取組を進める上での課題と対応の方針を示しています。

2 教育委員会の活動状況

令和4年度の教育委員会の活動について、教育委員会会議・学校訪問などの項目に分け教育委員会自身による点検を行いました。

(1) 教育委員会による点検

教育委員会会議は定例会と臨時会からなり、定例会は、4月、6月、8月、10月、12月及び2月に原則招集し、臨時会は、定例会のほかに教育長が必要であると認めたときに招集しています。

なお、臨時急施を要する事務及び軽易な事務については、委員会を招集しないで期限を指定し、書面決議によることができます。この場合においては、委員3分の2以上の同意を得なければ否決されたものとみなされます。

以下、令和4年度の主な活動内容について報告します。

①令和4年度教育委員会定例会・臨時会・書面決議

年	月	日	開	催	区	分
令和4年	4月	14日	書面決議			
	4月	26日	定例会			
	5月	11日	書面決議			
	6月	3日	定例会			
	7月	12日	書面決議			
	8月	5日	書面決議			
	8月	25日	定例会			
	10月	1日	書面決議			
	10月	27日	定例会			
	11月	14日	書面決議			
	12月	6日	定例会			
令和5年	2月	14日	臨時会			
	2月	22日	定例会			
	3月	2日	書面決議			
	3月	13日	書面決議			
	3月	30日	書面決議			

②令和4年度教育委員協議会

年 月 日	協 議 内 容
令和4年 4月 26日 (火)	(1) ミルク給食の無償化に向けたアンケート調査の実施について (2) 新規英語指導助手の着任について (3) 郷土館外壁補修工事について
6月 3日 (金)	(1) ミルク給食の無償化に向けたアンケート調査の実施について (2) スポーツセンターの今後の在り方について
8月25日 (木)	(1) 保育料の算定誤りについて (2) 令和4年度全国学力・学習状況調査について (3) ミルク給食に関するアンケート結果について (4) スクールランチのアレルギー対応について (5) 「学校における働き方改革 様似町アクション・プラン」の改定について (6) スポーツセンターの耐震診断実施について
10月27日 (木)	(1) 外国語指導助手の着任について (2) 準要保護児童生徒認定基準の見直しについて (3) 遠距離通学費助成の見直しについて (4) 公設塾の検討状況について
12月 6日 (火)	(1) 令和4年度 教育委員会点検・評価報告について (2) 部活動の地域移行について (3) 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について
令和5年 2月14日(火)	(1) 令和4年度 全国体力・運動習慣調査(体力測定)結果について
2月22日(水)	(1) 家庭学習支援(公設塾)に関するアンケート結果について (2) 令和5年度教育行政執行方針について

③令和4年度総合教育会議

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴い、平成27年4月1日から全ての地方公共団体において総合教育会議が設置されることとなりました。

そのことにより、教育に関する予算の編成・執行や条例提案など重要な権限を有している町長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政を図るために開催するものです。

本町においても平成27年度より総合教育会議を開催しておりますが、令和4年度においては次のとおり開催し協議を行いました。

年 月 日	協 議 内 容
令和5年3月2日(木)	(1)学校における ICT の活用状況について (2)スポーツセンター耐震診断の進捗状況について

④令和4年度学校訪問・行事関係等活動状況

年 月 日	活 動 内 容
令和4年 4月 1日 (金)	年度初め職員への教育長訓示
4日 (月)	第13回幼児センター入園式
4日 (月)	令和4年度教職員辞令交付式
7日 (木)	第53回様似小学校入学式
7日 (木)	第76回様似中学校入学式
5月28日 (土)	第76回様似中学校体育大会
6月11日 (土)	第53回様似小学校運動会
7月 2日 (土)	第13回様似町立幼児センター運動会
10月 1日 (土)	様似町開基220年町制施行70周年記念式典 令和4年度様似町表彰式
11月 2日 (土)	様似小学校学習発表会
19日 (土)	第13回幼児センター発表会
令和4年12月19日 (金)	教育委員学校訪問【様似小学校・様似中学校】
3月15日 (水)	第76回様似中学校卒業式
3月18日 (土)	第53回様似小学校卒業式
3月25日 (土)	第13回幼児センター卒園式

(2) 項目別点検

①教育委員会会議等

ア 議案について

令和4年度教育委員会会議等にかけられた議案等については、次のとおりです。

4月14日 書面決議

番 号	議 件
議案第 1 号	令和3年度教育費補正予算（第8号）について

4月26日 定例会

番 号	議 件
議案第 2 号	様似町図書館協議会委員の委嘱について
議案第 3 号	様似町スポーツ推進審議会委員の任命について
議案第 4 号	様似町高等学校生徒情報端末購入費補助要綱の制定について
議案第 5 号	令和4年度様似町奨学資金支給対象者の決定について
議案第 6 号	令和4年度就学援助費給与者の認定について

5月11日 書面決議

番 号	議 件
議案第 7 号	令和4年度教育費補正予算（第1号）について

6月 3日 定例会

番 号	議 件
議案第 8 号	教育財産の用途廃止及び所管換えについて
議案第 9 号	様似町立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について
議案第10号	様似町立学校職員服務規程の一部を改正する訓令の制定について

7月12日 書面決議

番 号	議 件
議案第11号	令和4年度教育費補正予算（第2号）について

8月 5日 書面決議

番 号	議 件
議案第12号	令和4年度教育費補正予算（第3号）について

8月25日 定例会

番 号	議 件
議案第13号	令和5年度使用小学校教科用図書採択について
議案第14号	令和5年度使用中学校教科用図書採択について
議案第15号	令和4年度教育費補正予算（第4号）について
議案第16号	令和4年度様似町スポーツ表彰について

10月1日 書面決議

番 号	議 件
議案第17号	様似町教育委員会教育長職務代理者の指名について

10月27日 定例会

番 号	議 件
議案第18号	様似町教育委員会公印規則の制定について

11月14日 書面決議

番 号	議 件
議案第19号	令和4年度教育費補正予算（第5号）について

12月 6日 定例会

番 号	議 件
議案第20号	令和4年度教育費補正予算（第6号）について

2月14日 臨時会

番 号	議 件
議案第21号	様似町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について
議案第22号	様似町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について
議案第23号	様似町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について
議案第24号	様似町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担等に関する条例等の一部を改正する条例の制定について
議案第25号	令和4年度教育費補正予算（第7号）について

2月22日 定例会

番 号	議 件
議案第26号	令和4年度就学援助費（入学準備金）給与者の認定について
議案第27号	令和5年度教育費予算について

3月 2日 書面決議

番 号	議 件
議案第28号	教職員の任免について

3月13日 書面決議

番 号	議 件
議案第29号	教育委員会職員の人事について

3月30日 書面決議

番号	議 件
議案第30号	独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度に係る保護者負担額に関する要綱の制定について
議案第31号	遠距離通学者に係る通学費交付規則の一部を改正する規則の制定について
議案第32号	町立学校児童生徒への遠距離通学者等に係る通学費交付要綱の一部を改正する告示の制定について
議案第33号	様似型スクールランチ事業実施要綱の一部を改正する告示の制定について

イ 議事について

教育長の開会宣告の後、議案審議前に生涯学習課各係・幼児センターの順に行政報告を行い、各教育委員による質疑、事務局職員による応答を行っています。

その後、議案の審議に入りますが、議案及び参考資料は事前に配付されており、各委員から問題意識を持った積極的な発言がありました。

②学校訪問並びに教育施設訪問について

町内の小中学校を訪問し、学校の取組みについて直接知る機会を設けています。児童生徒の学びの様子や学校の運営方針、施設、教育環境、授業状況、学校が抱えている課題などを把握することに努めました。

○令和4年12月19日（金） 様似小学校

内 容 授業参観、学校の概要説明、スクールランチの試食、懇談等
学校経営方針、全国学力・学習状況調査の結果と分析、国語の授業づくり、家庭学習、タブレットについて

○令和4年12月19日（金） 様似中学校

内 容 授業参観、学校の概要説明、懇談等
学校経営方針、小中一貫教育の取り組み、家庭学習と生活習慣について

③委員研修会への参加

第57回北海道市町村教育委員会研修会

○令和4年7月15日（金） 札幌市教育文化会館

～池田教育委員、櫻庭教育委員、秋山教育長、職員1名 参加

内 容 北海道教育委員会教育委員 青山夕香氏による講演
「学校と地域・保護者とのコミュニケーションに必要なこと」
文部科学省行政説明「教師の資質能力の向上について」
フォーラム事例発表
遠別町教育委員会「遠別農業高校の存続とICT教育」
更別村教育委員会「小さな村が地域の力を借りて行う教育の推進」

令和4年度日高管内教育委員会教育長・教育委員研修会

○令和5年2月1日（水） 新ひだか町三石

～池田教育委員、櫻庭教育委員、能登教育委員、教育長 参加

内 容 講演1「部活動の地域移行について」

講演2「学力向上について」

3 「令和4年度教育行政執行方針」に基づく施策の執行状況の評価

教育委員会では、毎年度、教育行政に関する執行方針を議会及び町民に示していますが、その中に盛り込まれた施策・事業の実施状況について自己評価並びに外部評価をしております。

なお、教育行政執行方針の内容については、別紙資料「令和4年度教育行政執行方針」をご参照ください。

(1) 総評

教育行政執行方針に示している各種事業については、新型コロナウイルス感染症の拡大による対策措置に伴い、中止や延期、規模の縮小などを強いられたものもありましたが、施策ごとに点検・評価を実施することにより、教育委員会における今後の方針決定に活かせるものと考えます。

(2) 令和4年度教育行政執行方針に基づく施策の評価

■採点 A評価：達成できた B評価：概ね達成できた C評価：達成できていない

①幼児教育及び児童福祉の推進

領 域	幼児教育及び児童福祉の推進
取組の概要 と実施状況	○次のとおり、乳児から幼児までの発達段階に応じた教育・保育の取組を進めるとともに、職員の研修を行いました。 <様似町の地域や産業を知る・自然体験学習の実施> ・田植え体験、稲の生長や稲刈り見学 ・野菜の収穫体験 ・駒谷牧場見学 ・アポイ遠足やアポイ登山並びに観音山、エンルム岬、ふれあいビーチでの自然体験学習や自然学習の実施。 ・様似川の生き物観察 ・園周辺にみられる野鳥学習会 ・観音山でのそり滑り ・いちご狩り体験 ・防火パレードへの参加

<小学校や小学生との連携交流>

- ・乳幼児と小学生のふれあい交流
- ・小学校との幼小連携交流として、小学校見学・支援の必要な子の引継ぎ及び教師同士の情報交換

<英会話とリトミック教室ともじ・かずの取組>

- ・3歳・4歳・5歳児クラスでC I R (国際交流員)による年齢に応じた英語に慣れ親しむ取組
- ・専門の講師による音やリズムを楽しむリトミック教室を実施(5歳児年24回)
- ・就学に向けた文字や数に親しむもじ・かずタイムの取組(5歳児)

<みらい塾>

- ・生涯学習課体育係職員による運動遊び(4・5歳児月2回)

<園外研修への参加>

- ・保育問題を考える研修会 1名参加 新ひだか町
- ・幼児教育施設長研修 Zoom研修で1名参加
- ・幼児教育の質向上に関する研究協議会 Zoom研修で1名参加
- ・幼小連携・接続者担当研修会 Zoom研修で1名参加
- ・日高地区児童福祉施設運営協議会研修会 1名参加 新ひだか町
- ・初任保育者研修 オンデマンド研修で2名参加
- ・乳児保育専門研修 Zoom研修で1名参加
- ・障害児保育専門研修 Zoom研修で1名参加
- ・コドモックル地域連携セミナー Zoom研修で2名参加
- ・日高地区保育研修会 Zoom研修で4名参加

<園内研修の実施>

- ・職員による散歩コース危険箇所確認とゲーム類のルール確認研修
- ・ゲーム紹介とミサガ作りの研修
- ・北見北光幼稚園吉田園長による園庭環境向上に向けたZoomによる研修
- ・「幼児教育への期待」オンライン配信を利用した研修
- ・「子どもと保護者の絆を深めるプログラム」大内公認心理士(うらかわエマオ診療所)による講演
- ・オンデマンド教材を用いたグループワーク研修
- ・「いま、乳児保育に求められるもの」オンライン配信を利用した研修
- ・園内ビデオ研修会
- ・乳幼児対応の心肺蘇生法と救急処置としてアレルギーによるエピペン使用までの実践研修会と吐物処理法の実践。
- ・学研「もじ・かず」指導者研修会

<情報発信>

- ・月1回「幼児センターだより」「心のまなざし」を発行
- ・幼児センターの活動や行事等をホームページに掲載

<p>内 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあり、日々の感染対策をしっかりと行いながら、子ども達とのふれあいを大切にし、笑顔で丁寧に関わるように心がけました。また、保護者との面談等で子育てについての喜びや悩みを共有し、信頼関係の構築に努めました。 ・コロナ禍において地域の方との交流が制限されたり、行事については内容を縮小することになりましたが、その反面、日常の遊びをじっくりと楽しむことができました。 ・日常の遊びでは、けん玉やコマ、あやとり、なわとびなどが盛り上がり、コマ検定やけん玉検定に挑戦してどんどん技術を向上させ、成功体験を重ねることにより意欲を向上させました。発表会で技を披露するなど1年を通して意欲的に取り組みました。また、積み木遊びでは、自分たちの思いを自由に表現し、運動会や火まつり、ハロウィンなどを表現し盛り上がりました。年中・年長児の作品展においては、運動会や発表会の思い出画を展示し、たくさんの方に見ていただきました。 ・園庭あそびでは、園庭遊具遊びの他、泥だんごづくりや色水あそび、プール遊びや、雨どいを使った水路づくり、シャボン玉、虫取り、落ち葉集め、サッカーや鬼ごっこ、雪だるまづくりや雪合戦など1年をとおして様々な遊びを楽しみました。 ・子ども達の体力づくりの一環として行っている運動遊びでは、3歳児から雑巾がけや動物の模倣遊び等の運動遊びを定期的に行いました。みらい塾では、ボール運動・リズム運動・バランス遊び・マット運動・鉄棒運動・サーキット運動を取り入れ楽しんで行うことができました。また、3～5歳児合同でミニ運動会を企画し、スポーツセンターで楽しく遊ぶ経験や、園周辺の土手を走るマラソン活動を楽しみました。 ・観音山のそり滑りは、10年に一度の最強寒波の中、保護者に協力をいただき安全に配慮しながら存分に楽しむことができました。 ・様似の身近な自然への関心を高めるためのジオ学習や、行事や散歩を通して園周辺における動植物の観察を楽しむことができました。自然体験学習では、町学芸員や浦河野鳥クラブの方による学習会を行い、スライド写真や鳥の模型、アポイの高山植物を見ながら解説を聞くことができ、アポイや観音山でのジオ学習では現地ガイドとして学芸員に同行していただき、実物を見ながら説明を受け、動植物への更なる興味・関心を高めることができました。また、年中・年長児が歩いて観音山へ行き、様似町の海・山の素晴らしい景色を堪能し、普段見られない様々な動植物を見つけることができました。野鳥については、図鑑やスライド学習、職員が作成する「野鳥新聞」や園内に飾られた野鳥の写真、野鳥のメモリーカード等を通してさらに関心が高まりました。川遊びでは、網を使ってエビやヤゴをみつけたり、イタドリで作った釣り竿で初めて魚釣りを体験しました。大きな魚を釣りあげた時は歓声があがり、貴重な経験となりました。 ・C I Rによる英語学習では、3歳児クラスから5歳児クラスにおいて毎日の積み重ねにより子ども達の英語に対する関心度が高まり、運動会や
----------------	--

	<p>発表会においてその成果を発表することができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5歳年長児クラスのリトミック教室では、楽しい音楽やリズムに親しみ、その活動をベースとしたリトミック体操としてなわとびや楽器を使った身体表現活動が子ども達にも定着し、発表会においてのびのびと発表することができました。 ・食育として、調理見学を定期的に行いました。また、幼児センターの農園では芋まき・芋ほり体験をしたり、ニンジンや大根、枝豆を種まきから行い、生長を観察し、子どもたちが収穫しました。また、収穫したピーマンを園で調理し、給食で提供し、食物への関心や、食べることへの意欲を高めました。 ・小学校との幼小連携では、コロナ禍で子ども同士の交流はあまりできませんでしたが、小学校入学後に子ども達がスムーズに学習に取り組めるよう、学校見学や小学校職員による参観・子どもたちの情報交換や引継ぎを行いました。今後も園児・児童の交流機会を設けることも含め、連携を密に行っていきたいと考えています。 ・研修については、オンライン配信を利用した研修やZOOMでの研修を行うことができました。その結果、長距離の出張による負担が減り、園の職員全体で同じ学びを共有し、グループディスカッションを通し、学びと実践が深まるなど利点が大きいと感じました。今後も更なる研鑽が必要と感じました。
--	---

評 価
B

外部評価	<p>○先生方におかれましては、日常の業務も多忙な中、子供達のために様々な研修の参加や取り組み等、親として感謝しかありません。いつも園から帰宅した子供が「今日はこんな事をした、あんな事をしたよ」と楽しそうに話してくれます。その話を聞いているだけで、日頃の取り組みの努力と成果を感じ取る事ができますし、子供達にもちゃんと伝わっていると思います。</p> <p>○家庭では出来ない貴重な体験を沢山させて頂きとても良い活動だと思えます。食べ物を育てる事も、育てる楽しみ、好き嫌いの克服へと繋がり、これからのそのような活動を沢山して欲しいです。</p> <p>○ジオ学習や魚釣り、農業体験（センターでの農園含む）など自然にふれながら様々な活動ができ、生き物や植物などに興味をもつきっかけになり、とても良かったと思います。</p> <p>○遊び、運動、体験と様々な取り組みがあり、とても良かったと思います。もじ・かず・英語など学習系の時間がもう少しとればもっといいかなと思いました。</p> <p>○小学校に入ってから、幼児センターは本当に楽しかったと子供達は話します。いっぱい遊んで、学んで、体験して一生思い出になると思いますの</p>
------	--

	で、先生達も楽しんで指導をお願いします。年間の行事など見るだけでワクワクさせていただきました。
--	---

評 価
A

今後の課題と対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ○戸外で0・1歳児が安心して十分に体を動かすためのスペースの確保と、子どもたちが夢中になって遊び込めるための園庭の環境の整備に努めていきたいと思います。 ○家庭での運動あそびの経験が少なくなっていることから、0歳児から5歳児までの各年齢の発達に合わせた運動と多様な動きを獲得するための運動遊びを計画して日々取り組んでいきたいと思います。 ○子ども達の特性や課題をしっかり把握し、子どもが主体的に遊べる環境づくりを目指します。そのためには、子どもをよく観察し、必要な力をしっかりと身に付けられるように、遊びの計画や評価・反省をしっかり行っていきたいと思います。また、遊びの振り返りを通して子どもたちの感じたことや考えを伝え合い、それを反映した取り組みを行っていきたいと思います。 ○子どもたちが日々意欲的に活動するためには生活リズムを整えることが重要ですので、家庭と連携して早寝・早起き・朝ごはんの実践を促進していききたいです。 ○C I Rの英語学習(3・4・5歳児クラス)やリトミック教室(5歳児クラス)では、子どもの興味・関心の高まりと取組の成果を発表できているので、リトミック教室においては、4歳児からの取組を考えたいと思います。 ○小学校との幼小連携交流においては、コロナ禍で十分交流を行うことが出来なかったため、今後は定期的に小学校の方へ見学できるように進めていきます。今後も小学校と情報共有をしながら、幼児期に身に付けなければならない力が小学校の「学びに向かう力」や将来における力に繋がるように、より効果的な交流を深めていきたいと考えています。 ○職員の資質向上のための研修時間を今まで以上に確保し、研修を拡充できる体制を作っていきたいと思います。 ○安全管理を徹底するために、各種の園マニュアルの見直しを行い、職員間の意思疎通を図りながら事故防止に努めてまいります。また、出欠の確認をしっかり行ってまいります。
------------	---

領 域	児童福祉（子育て支援関係）
取組の概要 と実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援だよりの発行のほか、町広報紙及び町ホームページや各施設に掲示し行事を掲載。 ○子育てサロン（週3回／10:00～12:00） 季節の行事（ピクニック、水遊び、クリスマス会・もちつき会）・季節の製作（こいのぼり作り、七夕製作、クリスマスツリー作り、ひな人形作り）・親子でお料理・おはなし会・お父さんと遊ぼう ○子育て相談（訪問・面談・電話） ○妊婦、子育て家庭を対象とした「子育てガイド」を作成し、母子手帳申請時に保健福祉センターにて配布 ○乳幼児健診（年／9回）～乳幼児の預かりやサロン紹介、「子育て支援だよりの配布 ○新生児訪問に同行し、子育て支援事業の紹介や子育てサロンのお誘いのほか、「子育て支援だよりの配布 ○要保護児童対策協議会との連携・協力により子どもの情報共有 ○放課後児童クラブ訪問（週／1～2回程度）～児童や職員の相談支援、月1回打ち合わせ会議
内 部 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ○子育てサロンで子育ての情報交換や親子の友だちづくりなどの機会を設けることができました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大のため、長期間サロンを開けることが出来ない時期がありました。 ○子育て支援だよりに子育てサロンの日程、各行事や遊びの様子等を掲載し、子育て支援事業について広く知ってもらい、子育て中の親子などに参加してもらえるよう情報の発信を行いました。また、町ホームページや各施設にも掲示しました。 ○乳幼児健診ではコーナー遊びを設け楽しく過ごしてもらいながら母子とかわりを持つようにし、新生児訪問では、保健師に同行し、子育て支援事業について知ってもらうよう働きかけ「子育て支援だよりの配布しました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大のため、コーナー設置は中止せざるを得ませんでした。そのかわりに、母親に声をかけサロンの紹介や子育ての様子など聞くようにこころがけました。 ○子育て講演会は、「親子で救急法を学ぼう」と題し、いざという時に役に立つ応急手当の方法や、身近で起こりうる事故や怪我などに慌てず対応できるよう、日高東部消防組合様似支署職員の方を講師に招き指導をしていただきました。また、「親子でハッピー・ヨガ」と題し、仕事や育児で日々時間に追われている母親を対象に、子どもとゆっくりとした時間の中で、体を動かし楽しんでもらおうと講師の方を招き、ベビー・ヨガ、親子ヨガを行いました。沢山の方に参加していただき、リフレッシュができ楽しかったなど感想をいただきました。 ○各行事や製作など親子で楽しんでもらえるよう心掛けました。しかし、親子でお料理は、新型コロナウイルス感染拡大や参加者の低年齢化などもあり、参加者がいない月がありました。

	○事業内容の感想、要望についてのアンケート調査を実施しました。サロンの実施日などの感想などありました。
--	---

評 価
B

外部評価	<p>○コロナに気をつかいながらの活動は、なかなか大変だったとお察し致します。活動の中で、もちろん親子で参加する行事も良いのですが、お母さんは24時間ずーっと赤ちゃんと一緒にいるので、例えばサロン主催のお茶会等を開いてもらって、その時間、子供は預かってもらえるような仕組みで、お母さん達の息抜き場などがあれば良いのかなあと思いました。(すでにあっただらうしません・・・)</p> <p>○コロナの感染拡大でなかなか思うような取り組みができないことが多かったと思いますが、今後も子育て世帯が参加しやすい行事を企画して行ってほしいです。</p> <p>○子育てサロン紹介を「子育てだより」を配布するだけでなく、乳幼児健診の時、新生児訪問の時など文書だけではなく対面してお話することで、顔見知りにもなるのでサロンにも行きやすくなると思います。一度行くときっと楽しい所なのでぜひお誘いしてあげてください。</p>
------	--

評 価
A

今後の課題と対応方針	<p>○子育て支援事業についてより多くの方々に知ってもらい、参加してもらえるよう、町ホームページや園で活用しているメールなどを使い、情報発信を続けていきます。</p> <p>○幼児センター内部のほか保健福祉課との情報交換を密に行い、子どもや家庭の様子など情報共有を行っていきます。</p> <p>○子育ての悩みや困りごとを発散できず、一人で抱え込む孤独な子育てが問題視されています。子育てサロンでは、困りごとなど話ができ悩みを分かち合い子育ての楽しみを共有できる場を提供していきます。</p> <p>○アンケート調査を参考に、ニーズに応える環境づくりをしていきます。</p> <p>○低年齢の親子でも参加できるような行事など企画していきます。</p> <p>○各関係機関と連携し、支援が必要な子育て世帯には必要な支援を行っていきます。</p> <p>○他町などの子育て支援や子育てサロンの在り方など情報を入手し、今後の子育て支援の参考にしていきます。</p>
------------	---

領 域	放課後児童対策
取組の概要 と実施状況	<p>○「親子岩児童クラブ」として、就労等により保護者が家庭に不在となる小学校1年生～3年生までの児童を対象に、放課後児童対策事業を実施。小学校4年生～6年生の児童を対象とした「放課後子ども教室」と一緒に放課後児童施設「ひ・ま・わ・り」で過ごしています。</p> <p>○学校指導主事による学習指導の実施。</p> <p>○月～金曜日までは、放課後から午後6時まで開設。 土曜日、春夏秋冬休み期間は、午前8時から午後6時まで開設。</p> <p>〈主な実施工事〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節行事の自由製作 ・そば打ち体験 ・夏休みイベント (ホットケーキ作り、すいか割り) ・クリスマス会 ・避難訓練(火災、地震、津波) ・豆まき ・大掃除 <p>※新型コロナウイルス感染拡大のため実施できない行事もありました。</p> <p>○毎月末、支援員、学校指導主事、子育て支援係で子ども達の学習、生活についての現状報告、今後の取組みについて打合せを行いました。</p>
内 部 評 価	<p>○平日の利用者が毎日50名ほどになり、施設内が手狭に感じています。異年齢との関わりを多く見ることができ、下級生に対し優しく接している場面を見ることができます。友達関係については遊びを通し思いを共有しながら楽しむ姿が見られる一方、時々乱暴な言動を使ったり、少々わがままな行動を見せたりすることもありました。そのような場合は、異年齢と一緒に遊ぶ等良い面は伸ばし、異年齢に対する不適切な態度や言葉遣いを聞いた場合等悪い面は指導を行いました。同学年のトラブルについては、ルールを明確にして対応していき、支援員にアドバイスをもらうことで、自分たちで解決する姿も見られました。このような子ども達の姿は、今後も予測されるので継続的に指導していきたいと思っています。</p> <p>○施設内の約束事を明確に貼り出すことで、子ども達の目に留まりやすくなるよう心掛けました。しかし、施設内の遊具など使ったあとの片付けがされないことが多く、元に戻してほしいことを伝えますが、自分ではないなどと責任転嫁することがありました。</p> <p>○習い事をする児童が多く、日程変更や下校中に子ども達に危険がないよう保護者と連絡を取り合い対応していきたいところではありましたが、保護者からの連絡がないことがあり、対応に困ることがありました。</p> <p>○児童クラブに来たらすぐに宿題をするという学習習慣は定着しています。友だちと一緒に学習することが励みになっているようです。また、学校指導主事の協力により学校との連携がスムーズに行うことができ、子どもの学習内容の取組みの違いなど学校と共通理解する中で、子ども達への指導の充実が図られました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者 60名 ・年間開設日 282日 ・年間利用者 7,402人 ・平均利用者数 平日32人 土曜日4.7人+長期21.7人

評 価
B

外 部 評 価	<p>○限られた場所で異年齢の子どもが安心・安全に過ごしていくことは、とても大変なことだと思います。年々利用する方も増え、放課後児童施設のニーズが高くなっていると思いますので、今後も小学校や関係機関と連携しながら、安全で安心して児童が過ごせる場所を確認して行ってほしいと思います。</p>
---------	--

評 価
A

今後の課題と対応方針	<p>○年ごとに、保護者の就労により、放課後児童施設「ひまわり」を利用する子どもの人数は増えています。また、学校生活で様々な思いを持って児童クラブに来ているので、子ども達の様子の変化にいち早く気づき、受け止めていくよう努めます。その上で、集団で過ごす場所に相応しい行動に繋がる指導や、安全で安心な生活について子ども達と考え、約束事を決めて実行できるよう努めていきます。</p> <p>○放課後児童施設「ひまわり」が利用する子ども達にとって、楽しい場所となり、支援員や友達との関係が良好になることに努めていきます。</p> <p>○小学校や関係機関と連携を図り、子ども達の学習や生活の問題点を早期発見するよう努めていきます。</p>
------------	---

②学校教育の推進

領 域	楽しく学べる学校教育の推進
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力の向上をめざす学力・学習状況調査の取組 ○豊かな心を育む道德教育・特別活動の取組 ○健やかな体を育てる体力づくりと好ましい生活習慣の取組 ○教職員の資質や能力向上を目指す教職員研修の推進 ○学校指導主事を配置し、各学校への支援体制の強化 ○指導方法工夫改善による少人数指導教員の加配に伴う指導の取組 ○郷土への愛着や誇りを育む取組 ○小中一貫教育の推進 ○地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクール）の推進 ○ICTを活用した授業の取組 ○「様似型スクールランチ」事業の推進 ○遠距離通学者等に係る通学費補助の見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○町独自に実施する各小中学校における標準学力調査を実施しました。 ○各小中学校では、自校の分析を行い、学校改善プランを作成しました。 ○各小中学校では、豊かな心を育むため特別活動において、全学年で交流する活動を行っています。 ○学校の教職員を対象とした「初任段階研修」「10年経験者研修」など道教委が主催する研修に参加するとともに、平成24年度からは学力向上に向け道外を含めた先進地の視察研修を行っていましたが、令和2年度からは「新型コロナウイルス感染症」により、視察研修に行くことができなかったため、オンラインソフトを用いた遠隔形式による研修に積極的に参加しました。 ○少人数指導教員の加配により、小学校では算数の授業において個別指導及び習熟度別指導を行うなど、きめ細かな指導を行いました。（中学校への加配は令和3年度より措置されておりません。） ○アポイ岳ジオパークを活用した「ふるさと学習」を行いました。 ○小中一貫教育を実施し、小学校6年生が水曜日に様似中学校へ登校し、中学校の日課で授業を行いました。また、小中学校の校種の垣根を越えた相互授業（乗り入れ）を行いました。 ○平成30年度からは、幅広い世代から意見を聴けるよう委員の中に高校生2名を任命し、小中学校をあわせた1つの「学校運営協議会」を立ち上げ、令和元年度からは、幼児センターも含めた学校運営協議会に枠組みを広げ年4回の会議を開催しました。 ○国の「GIGAスクール構想」により、小・中学生へ端末機器（クロームブック）を令和2年度に整備し、「新型コロナウイルス感染症」に伴う臨時休校等における自宅への持ち帰りを行えるよう、取組みを進めました。 ○令和3年9月より「様似型スクールランチ」を実施し、小・中学生へ「温かい昼食」を提供しておりますが、令和4年12月からはアレルギー対応を開始し、全児童生徒が利用できるようにしました。また、令和4年12月から

	<p>はミルク給食の無償化を行い、家庭での経済的な負担軽減を図りました。</p> <p>○遠距離通学者等に係る通学費交付金のうち、学校統合区域外の小中学生に係る補助制度の見直しを進めました。対象者をバス定期券購入者に限定する一方で対象地域の拡大と補助率の引き上げを行い、令和5年度から適用することとしました。</p>
内 部 評 価	<p>○標準学力調査結果を踏まえ、各小中学校では、調査結果を分析し、次年度の学校経営方針、重点項目、研究課題へ反映していますが、取組にまだ課題が多く見られます。</p> <p>○各種の教職員研修の実施により資質の向上が図られました。</p> <p>○「ふるさと学習」やジオパークの取組を通じて、児童生徒の郷土への愛着や地域への関心が高まっていることを実感できています。</p> <p>○コミュニティ・スクールの取組では12月に「町民熟議」を開催しましたが、新たな広がりにはつながっておらず、内容等を含め今まで以上に実行性を伴う取組が求められています。</p> <p>○ICTを活用した授業の取り組みについては、令和2年度に整備した端末機器(クロームブック)を授業だけでなく家庭学習においても活用を進めるため、端末の日常的な持ち帰りを始めるとともに、新型コロナウイルス感染症の流行等により登校できない児童生徒に対して遠隔授業を実施するなど、学びの保障を図る手段としても活用しました。また、授業で児童生徒が作成したデータを印刷できるよう端末機器用のプリンターを各学校へ設置しました。</p> <p>○「様似型スクールランチ」については、アレルギーに対応した代替食を用意した結果、その利用も始まり、保護者からも一定の評価をいただいております。</p> <p>○遠距離通学者等に対する通学費補助制度を見直すことにより、負担軽減の拡充と補助対象者の的確な把握が可能となりました。</p>

評 価
B

外 部 評 価	<p>○通学のバス利用を全ての生徒が無料で利用出来るようにしていただきたいです。</p>
---------	--

評 価
B

今後の課題と対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ○「小中一貫校」として教職員が自覚して小中学校の9年間で育てる子ども像を描きながら、学習のつまずきポイントに力を傾注できるよう、また、小中乗り入れ授業の果たす役割をしっかりと理解して推進する必要があります。そのためにも学校管理職はもとより、ミドルリーダーが学校全体をまとめ小中合同研修会をより強固なものにすることが求められています。 ○若手教員が多い中で、指導力・技術力に弱い部分があります。そのため、学校管理職の指導はもちろんのこと町指導主事の指摘事項をしっかりと共有するなど、授業改善につなげる取組の強化に努めます。 ○系統性のある「ふるさと学習」の実践を推進します。 ○小・中学校9年間の系統性を意図した指導計画を編成し、更なる指導方法の改善・充実を図るため、月1回程度の小・中合同研修会の実施が必要です。 ○コミュニティ・スクールが、地域づくりにもつながるよう多くの方々が学校を通じて参画できる取組や地域への情報発信の充実が必要と捉えています。 ○ICTの活用において、児童生徒へ一台ずつ整備した端末機器（クロームブック）の平常時からの自宅への持ち帰りを推進し、持ち帰らせているだけでなく、より効果的な端末機器の活用を行うよう努めます。また、児童生徒の学力向上対策の一環としてオンラインによる学習塾（公設塾）を開設します。 ○「類似型スクールランチ」については、家庭での経済的負担軽減を図るため、無償化の検討をいたします。
------------	---

領 域	児童生徒指導についての取組
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめや不登校などの実態把握調査の実施 ○生徒指導体制の充実強化
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめの実態把握は、児童生徒のアンケート調査や聞き取りを中心に行っているほか、いじめや不登校などの生徒指導上の諸問題についても校内委員会を通じて全教職員で共通理解を深め対応しています。 ○各小中学校、教育相談の開催を通じ実態把握に努めています。 ○日常的な教育相談活動を充実し、児童生徒の悩みや問題行動の早期発見に努めています。 ○不登校児童生徒に対し、保護者との連絡を密に行い、個々の状況にあわせて段階的に登校しやすい環境整備をすることで、徐々に登校の頻度を増やすことのできたケースもありました。
内部評価	<ul style="list-style-type: none"> ○各小中学校では、全教職員での情報共有と指導の徹底を図り、早期解決に取り組んでいます。 ○不登校児童生徒の実態把握をするとともに、当該児童生徒が保健室登校など登校しやすい環境づくりに努め、改善の方向に進んでいますが解決にまで至っていないのが現状であり、引き続き粘り強い対応が必要です。

評 価
B

外部評価	○個人間でのトラブル等はたまに耳にする事が有りますが、いじめや不登校については聞かないので対応できていると思われまます。
------	--

評 価
B

今後の課題と対応方針	<p>○いじめは絶対に許さないという教職員の共通理解と、常に学校全体で児童生徒の状況を細やかに把握し、早期発見・早期解決に努めることが重要と捉えています。</p> <p>○不登校児童生徒に対し、各学校において児童生徒の状況にあわせ、寄り添った適切な指導が行われるよう支援を行います。</p>
------------	---

領 域	特別支援教育についての取組み
取組の概要	<p>○校内体制の整備</p> <p>○家庭・福祉・医療関係機関との連携</p> <p>○様似町教育支援委員会及び様似町特別支援教育連携協議会の開催</p>
実施状況	<p>○小中学校において在籍の校内コーディネーターや校内委員会の設置など組織的な体制の充実が進められています。</p> <p>○個別の教育指導計画をはじめ、小中学校を通した中での教育支援計画を作成しております。</p> <p>○北海道立特別支援教育センターが実施する「巡回教育相談」や「特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業」を活用し、指導や支援の方法について助言を受けました。</p> <p>○様似町教育支援委員会及び様似町特別支援教育連携協議会を令和4年11月に開催し、幼・小・中をはじめ保健福祉課を含めた年間スケジュールの見直しを行いました。</p>
内部評価	<p>○巡回教育相談・特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業により、対象児童生徒の保護者や各学校へのきめ細かな指導ができました。</p> <p>○教育支援委員会の開催とあわせて、特別支援連携協議会を開催し、幼児センター及び小中学校の関係者による情報交換を行いました。</p> <p>○就学に向けた小学校と幼児センターの情報共有、保護者への説明の機会の早期化について、現在よりも前倒しで行うことが課題解決やスムーズな保護者の理解につながることを感じる事例が多くなってきており、常に早い取組みが必要と感じています。</p> <p>○普通学級における個別に配慮が必要な児童生徒を把握し、学校全体で個に応じた指導・支援の充実を図ることができました。</p>

	<p>○知能検査実施結果により基準点以下の児童について、再検査を実施しました。また、再検査後においては、小学校のコーディネーターと協力して当該保護者及び就学相談を希望する保護者と面談を実施し、特別支援学級の入級及び入学後の「通級指導」について状況を説明のうえ、スムーズに入学できるよう対応しました。</p>
--	---

評 価
B

外部評価	<p>○保護者・学校・関係機関での情報共有が重要だと思いますが、幼・小・中と長い関わりとなるのでしっかりと対応して欲しいと思います。</p>
------	--

評 価
B

今後の課題と対応方針	<p>○小学校と幼児センターとの情報共有、保護者への説明の機会の早期化については、重要な課題と捉え、関係者間で更にスムーズに取組方法を協議し進めます。また、中学校及び町関係機関が一体的に取り組めるよう「年間スケジュール」に沿って業務を進める必要があり、そのためには実務担当者での協議が重要となります。</p> <p>○特別支援学級及び普通学級における個別に配慮が必要な児童生徒の実態に合わせた教育環境の整備を行っていくことが必要で、学習補助員により個別対応の中でサポートできるよう引き続き人員配置を行っていきます。</p> <p>○特別支援教育の推進に当たっては、LD・ADHD・高機能自閉症等を含む障がいのある児童生徒の理解や指導・支援体制の整備について、保護者や地域の人々に対して理解を深めてもらう取組が必要と捉えています。</p> <p>※LD＝学習障がいのこと。基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指す。</p> <p>※ADHD＝注意欠陥／多動性障がいのこと。年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、衝動性、多動性を特徴とする行動の障がいで、社会的な活動や学業の機能に支障をきたす。</p>
------------	---

③社会教育の推進

領 域	少年教育
取組の概要 と実施状況	<p>○子ども文化クラブ</p> <p>町内の文化団体や指導者の協力を得ながら子どもの文化活動を支援する「子ども文化クラブ」は、「かるた教室」を全16回開催、延べ190名が参加。北海道子どもかるた大会日高地区予選大会では、中学生の部において浦河との合同チーム「柊の華炎」が優勝し、北海道子どもかるた大会（札幌市）において、同チーム「柊の華炎」が全道優勝という素晴らしい結果を収めました。</p> <p>○派遣事業</p> <p>少年の主張日高地区大会は、事前に録画した映像による審査により開催され、中学生1名が参加しました。</p> <p>日高管内社会教育主事会主催による青少年育成・体験事業「ひだか未来塾」は、「持続可能な世界（地域）を創るために、私たちができること」をテーマに浦河町で開催され、中学生4名が参加しました。</p> <p>○団体事業の支援と共催事業の実施</p> <p>・町子ども会育成連絡協議会主催事業</p> <p>例年行っていた少年少女キャンプ大会については、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、規模を縮小し日帰り日程の「ふれあい少年少女ダム見学・自然体験会」を行う予定でしたが、悪天候のため中止となりました。</p> <p>「凧づくり体験会」は凧の会の協力のもと実施し、保護者を含めて20名が参加しました。</p> <p>「だれでも一等賞」は半日日程で縮小開催し、17名が参加しました。</p>
内 部 評 価	<p>○子ども文化クラブ</p> <p>「かるた教室」は、文化団体の会員がボランティアで指導し、将来の文化活動の担い手育成にもつながっています。管内・全道大会の参加や近隣町との合同練習を通じて、他町との交流を深め刺激を得ています。</p> <p>○派遣事業</p> <p>普段は町内の仲間と過ごすことが多い中学生にとって、他町との中高生と交流することができる「ひだか未来塾」に参加することは、交流の幅を広げる、様子町の良さについて改めて気づくなど、貴重な機会となっています。</p> <p>○団体事業の支援と共催事業の実施</p> <p>各団体が主体的に運営できるよう、団体の事務局やサポートとして事業運営の支援を行っています。</p> <p>また、団体会員がやりがいを感じつつ子どもたちと交流を深められるようにしています。</p>

評 価
B

外部評価	<p>○少年教育の取組はとても良いと思えました。色々な会の方の協力のもと子供さん達へのサポート、指導が行われており、地域が一体化している活動ができていると思います。多種多様な事に取り組んでいる事は、教育委員会の方をはじめ、それに協力しておられる一般の方々には感謝いたします。</p> <p>○一つ残念な事は学力レベルの低下です。生徒が少ないならではの出来る教育になってほしいと希望します。将来、自分の進みたい学校、職種に選択肢がもてるような学力をつけたいものと考えます。</p>
------	---

評 価
B

今後の課題と対応方針	<p>○「様似町の素晴らしさ」を参加者が再認識し、ふるさとに誇りを持ち、郷土愛を高められるよう、アイデアを凝らした事業を実施していきます。</p> <p>○各種事業のあり方を随時検討し、他課の事業との連携を図りながら、参加者により充実した事業を展開していく必要があります。</p> <p>○家庭教育については、関係部署との連携や学校運営協議会の取り組みとも連携しながら事業内容を検討し推進していきます。</p>
------------	---

領 域	
取組の概要と実施状況	成人教育（青年・女性含む）
内部評価	<p>○社会教育委員</p> <p>コロナの影響もあり町内での会議開催には至りませんでした。令和3年度～4年度は様似町の社会教育委員長が日高管内社会教育委員連絡協議会の会長を務め、様似町で事務局を務めたこともあり、管内、全道の会議・事業への参加を行いました。</p> <p>10月に第61回北海道社会教育研究大会（留萌大会）兼全国社会教育委員連合北海道ブロック大会（オンライン）が開催され、2名参加しました。</p> <p>3月に日高管内社会教育委員連絡協議会研修会が開催され、3名参加しました。また日高管内社会教育委員連絡協議会理事会及びミニ研修会が開催され、1名参加しました。</p> <p>○生涯学習講座</p> <p>英会話教室「サマニングリッシュクラブ」（全36回、延べ113名参加）を開催。なお、新型コロナウイルスの影響により、大人クラスのみで開催とし、子どもクラスは中止としました。例年行っていた「ハロウィンパーティー」は新型コロナウイルス感染症の影響から、写真での仮装コンテストによる実施となりました。</p>

	<p>○青年教育</p> <p>成人式・成人祭の実施に向けた実行委員会として、新成人による「はたちのつどい・成人祭実行委員会」を実施（全4回、延べ30名参加）しました。</p> <p>成人式は新型コロナ感染対策を講じながら例年より規模を縮小し、「令和5年二十歳の成人式」に名称を変更し実施しました。成人祭は行いませんでしたが、成人式終了後の交流時間を設けました。</p> <p>また、町青年団体協議会の運営や様似町クリーン作戦（14名参加）開催などの支援を行いました。</p> <p>○女性教育</p> <p>町女性団体連絡協議会の運営を支援しました。</p> <p>町女性大会はコロナの影響で開催の可否を検討する中、皆が顔を合わせる機会を作りたいという意見を踏まえ縮小開催。岡本真なみ氏による「ごきげんな自分づくりのためのアンガーマネジメント」と題した講演会を（45名参加）行いました。</p>
--	--

評 価
B

外 部 評 価	<p>社会教育委員の方の研修会参加に加え、英会話教室、成人式開催、女性大会等コロナがまだありつつも、以前の状況に戻り、開催されている事は、高評価に値すると思います。これからも積極的に多方面で開催される事、望んでおります。</p>
---------	--

評 価
B

今後の課題 と対応方針	<p>○生涯学習講座は、地域住民のニーズを考慮し、必要に応じて新規事業の展開を行っていく必要があります。また、既存の事業について工夫・改善を行います。</p> <p>○青年団体や女性団体といった社会教育団体の活動が、町内外の人の交流を活発にし、まちの活性化につながるよう、各団体の活動に対し支援・協力していきます。</p>
----------------	---

領 域	高齢者教育
取組の概要と実施状況	<p>○様似町高齢者大学の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者大学学習として、各地区で自主的に運営する高齢者学級での学習活動に関する相談・支援・講師派遣について、税務町民課、保健福祉課、消防、警察等関係機関と連携し実施体制を整えています。(交通安全、防火・救急、健康、レクリエーション、映像学習、頭の体操など) ・親子岩高齢者学級と錦・緑町高齢者学級において、学習活動(交通安全教室や健康教室など)を実施しました。(全7回、延べ179名) ・新型コロナウイルスの影響により、高齢者大学合同学習会を中止としました。 ・文集「福寿草」の発行。年1回(投稿者6名、31ページ) <p>○きらめきサークルの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・60歳以上の希望者を対象に、年間を通じて各種体験・学習活動(防災教室や工作など)を実施しました。(全14回、延べ113名参加)
内 部 評 価	<p>○高齢者学級は学級数や会員数が減少しているのが現状ですが、新しいプログラムを組み込み、各学級の実状や希望等に沿うよう実施体制を整えています。</p> <p>○高齢者大学合同学習会は、新型コロナウイルス感染症により中止としました。</p> <p>○文集「福寿草」の投稿者を増やすために、書くことが苦手な方に対する「聞き取り」を充実させる、これまでの投稿者同士のつながりを活用するなどの工夫が必要です。</p> <p>○きらめきサークルについては、様々なプログラムを実施することができました。幅広い内容のプログラムを行う事で、参加者の趣味の幅を広げ、生活に彩りを与えられるような事業展開ができました。</p>

評 価
B

外 部 評 価	<p>高齢者の方が学べる場がこのようにある事はとても良い事だと思います。会員数の減少が気になりますが、呼びかけ、声掛けし、沢山の方に来てもらうと良いと思います。</p> <p>新型コロナの影響で出かけない事に慣れた高齢者が増えている中で、参加者を募っていくには少し時間がかかるとは思いますが、根気よく呼びかけをするしかないと思います。</p>
---------	---

評 価
B

今後の課題と対応方針	<p>○高齢者学級（老人クラブ）参加者の減少が続いていますが、自治会を基礎とした地域住民の交流が維持できるような支援を、今後も継続して行います。</p> <p>○「生きがい」をキーワードに魅力的な事業を検討し、「きらめきサークル」など、高齢者学級（老人クラブ）などに属さない高齢者層の要求に的確に対応した事業展開を行います。</p> <p>○合同学習会については、高齢者学級に所属していない人の参加方法について検討を進めます。</p> <p>○心身の健康を保ち、よりよい生活につなげるよう、「介護予防」の観点から保健福祉課との連携に取り組みます。</p>
------------	---

領 域	芸術文化
取組の概要と実施状況	<p>○幼児、児童、生徒、一般町民への芸術文化鑑賞機会の提供</p> <p>○文化協会等、自主的に活動する文化団体への活動支援</p> <p>○芸術文化の鑑賞事業</p> <p>○様似文化協会の運営や文化祭の発表会・展示会の開催協力など、文化団体の自主活動の支援。管内文化団体連絡協議会事業への協力</p> <p>・学校芸術鑑賞事業</p> <p style="margin-left: 40px;">幼 児 「劇団風の子北海道」による『かぜのしっぽ』</p> <p style="margin-left: 40px;">小・中学校 「劇団角笛」による『角笛シルエット劇場』</p> <p>・町民向け文化振興推進事業</p> <p style="margin-left: 40px;">公民館いろいろアート展</p> <p style="margin-left: 80px;">①「南清手作り凧作品展・北海道大凧まつり写真展」</p> <p style="text-align: right;">観覧者 250名</p> <p style="margin-left: 80px;">②「写真愛好会 SPA・北海道カメラ女子の会写真展」</p> <p style="margin-left: 120px;">「～空から様似を見てみよう～SAMC さまにエアームービークラブ発表会」</p> <p style="text-align: right;">観覧者 260名</p> <p style="margin-left: 80px;">③「成澤広幸ほしぞら写真展」</p> <p style="text-align: right;">観覧者 40名</p> <p style="margin-left: 40px;">「NHK-FM「民謡をたずねて」公開録音」</p> <p style="text-align: right;">観覧者 90名</p> <p style="margin-left: 40px;">「山木康世ライブ Live Library 2022～ようこそ秋の日 23年ぶりの様似コンサート」</p> <p style="text-align: right;">観覧者 120名</p> <p style="margin-left: 40px;">「ひらかわしょうじろう漫画作品展」</p> <p style="text-align: right;">観覧者 320名</p>

	<p>様似文化協会 文化祭等事業</p> <p>「様似町文化祭 芸能発表会」 観覧者 120名</p> <p>「様似町文化祭 水墨彩画同好会・うのとり吟社合同展」 観覧者 90名</p> <p>「書道会東部三町書道展」 観覧者 315名</p> <p>○アイヌ文化の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校でのアイヌ文化学習授業支援を実施しました。 ・アイヌ施策推進事業の実施～ <p>「宇井真紀子写真展 アイヌ 100人のいま」 観覧者 300名</p> <p>「オキ タブ アイヌ バンド 様似公演」 観覧者 250名</p> <p>その他、熊崎直平氏資料の整理及び資料目録作成事業、アイヌ文化PR用動画の制作、公開、文化伝承用品の製作事業を実施しました。</p>
<p>内部評価</p>	<p>○芸術文化に触れる機会の少ない幼児・児童・生徒に対し、芸術鑑賞事業は重要な役割を果たしていると考えています。</p> <p>○町民向けの作品展や講演会等を実施し、好評を得ています。今年度は「ひらかわしょうじろう漫画作品展」を始めとした展示会事業を多く行い、町内外から多くの方が来館し、充実した作品展となりました。</p> <p>○文化協会の活動をはじめ、町民による自主的な文化活動を積極的に進めることができました。</p> <p>○様似アイヌ協会・様似民族文化保存会にご協力いただき、アイヌ文化の普及や国の交付金を活用した事業に着手することができました。</p>

評 価
A

<p>外部評価</p>	<p>芸術文化は、様似町は、とても沢山の活動をされていらっしゃると思います。その活動の観覧者もかなり多いと思います。関心が高い表れだと思います。</p> <p>時々、幼稚園児などの作品がギャラリーに展示してありますが、高齢者の方などが目を細めて観ているのをみかけます。とても良いミニ鑑賞会だと思いました。</p>
-------------	--

評 価
A

<p>今後の課題 と対応方針</p>	<p>○今後も町民への芸術文化の普及と理解を積極的に推進していきます。</p> <p>○町内や近隣町の団体や個人が取り組んでいる芸術・文化活動について、展示会の開催を呼びかけるなど、積極的に紹介し、公民館の有効活用を図ります。</p> <p>○文化活動の次世代の担い手を育成するよう、文化協会の取組みを積極的に支援していきます。</p> <p>○人にとって、文化や芸術は「生きがい」として重要なことから、各種文化活動が学びや交流に結びつくよう、今後も事業展開を図ります。</p> <p>○様似アイヌ協会・様似民族文化保存会の意見等を踏まえ、様似の特色あるアイヌ文化伝承・普及の支援に取り組めます。</p>
------------------------	--

<p>領 域</p>	<p>郷土館・文化財・その他の文化関係</p>
<p>取組の概要 と実施状況</p>	<p>○様似山道普及活用事業 新型コロナウイルスの影響により、例年実施している「様似山道歩こう会」は中止としました。日高振興局やえりも町と連携し、「木育ひろば in チカホ」（会場：札幌駅前通地下歩行空間北3条交差点広場）で、様似山道・猿留山道をPRするパネル展示を2日間行いました。</p> <p>○カンカン講座の実施 図書館、アポイ岳ジオパークビジターセンターとの連携講座である「カンカン講座」を平成28年度から実施しています。令和4年度は郷土館の学芸員が不在となったため、郷土館の担当講座はありませんでした。</p> <p>○アポイカレッジ（セミナー等事業）の実施 令和2年度より、商工観光課及び様似郷土館主催事業を「アポイカレッジ」として体系的な事業としています。令和4年度は郷土館の学芸員が不在となったため、郷土館の担当事業はありませんでした。</p> <p>○蝦夷三官寺みらいネットワーク事業の実施 蝦夷三官寺みらいネットワーク事業として、「蝦夷三官寺巡回パネル展」を伊達市で開催したほか、各博物館施設と寺院に設置された記念スタンプによるスタンプラリーを実施しました。</p> <p>○様似郷土館の活用 郷土館資料の貸出は、6件28点。資料の寄贈は、5件1,230点でした。 郷土館外壁改修工事を実施し、古い施設ですが当面の間使用できるよう取り組みました。</p>
<p>内 部 評 価</p>	<p>○令和4年度は学芸員が不在となり、普及事業はほとんど実施できませんでした。資料の収集・整理は着実に進めています。</p>

<p>評 価</p>
<p>B</p>

外部評価	郷土館等、なかなか住民が足を運ばない様に感じます。学芸員さん不在という事で、存続できますか？と問いかけたいです。図書館内に、一部作るのですとか…。
------	---

評 価
B

今後の課題と対応方針	<p>○町民のニーズに応えた事業を展開し、博物館施設及び社会教育施設としての様似郷土館の位置づけを町民とともに検討していく必要があり、引き続き事業の実施を進めて行きます。</p> <p>○文化財の保存管理に引き続き取り組み、資料のデジタル化を進め、デジタル資料の公開について検討を行います。</p> <p>○様似山道の価値を維持し次世代へと継承していくための「保存活用計画」及び町全体の文化財を保存・活用する総合的な計画である「文化財保存活用地域計画」の作成について、今後計画的に取り進めることができるよう、検討を始めます。</p> <p>○学校との連携を深め、授業等での郷土館の活用を促すとともに、郷土館の立場から子どもたちの考える力を育む事業を構築して行きます。</p>
------------	---

領 域	社会教育関係団体への支援
取組の概要と実施状況	<p>○町内の社会教育団体への補助金の交付、各種研修会への参加奨励、団体の事業運営の支援と助言指導を行いました。</p> <p style="margin-left: 20px;">※団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様似町青少年育成協議会 ・様似町子ども会育成連絡協議会 ・様似町青年団体協議会 ・様似町女性団体連絡協議会 ・様似町PTA連合会 ・様似文化協会
内部評価	○行政が活動の主体となるのではなく、各団体の活動を「支援」することにより、自主・自立した団体運営が図られています。

評 価
B

外部評価	これで良いと思います。
------	-------------

評価
B

今後の課題と対応方針	<p>○各団体の取組を広く紹介したり、団体間の連携や各種事業への参加・協力を呼びかけたりするなど、創意工夫で事業内容を精査し持続的な活動ができる体制づくりを支援します。</p> <p>○「コミュニティ・スクール」への積極的な参加を呼びかけ、地域ぐるみでの教育活動につなげます。</p>
------------	--

領域	地域学校協働活動（学校支援）
取組の概要と実施状況	<p>○令和4年度地域学校協働本部事業（学校支援ボランティア）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児センター～新型コロナウイルスの影響により中止 ・ 様似小学校～生活科授業支援、プール清掃支援、ミシン修理支援、絵本読み聞かせ ・ 様似中学校～グラウンド整備支援、体育大会写真撮影支援、マラソン大会支援 全12回実施、延べ59名参加 <p>※令和4年度末時点 学校支援ボランティア登録者数 34名</p>
内部評価	<p>○学校運営の一助となるような事業を進めており、学校側から大変良い評価をいただいています。写真撮影やミシン修理など、地域の人材を生かした授業を進めることができています。</p> <p>○児童生徒とボランティア間の交流が深まり、良好な関係を築けているように感じます。</p> <p>○「学校支援だより」発行など広報活動に積極的に取組み、新たなボランティアの登録や事業の理解につなげています。</p>

評価
A

外部評価	<p>町民の方が、学校支援に協力されていてとても良いと思います。20代30代の方も、どんどん来てくれると良いと思います。</p> <p>今年度は、新型コロナで中止になっていた、中学校での授業の中で伝統文化である茶道を取り入れてもらう事になりました。これからも、部活など生徒に体験してもらえ事を願っています。</p>
------	---

評 価
A

今後の課題と対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ○地域全体で子どもたちの学びや成長を支える取組みの一つとして、今後も積極的に取組みます。 ○ボランティアに気軽に参加してもらい、住民と学校との接点をつくることで支援に参加する住民の生きがいがづくり、住民同士の交流づくりにつなげます。 ○コミュニティ・スクールでの議論を地域学校協働活動の推進に活用していきます。
------------	---

領 域	放課後子ども教室
取組の概要と実施状況	<p>○小学校4年～6年生対象「放課後子ども教室」開設</p> <p>様似小学校敷地内の「放課後児童施設・ひまわり」において、子どもたちの放課後の居場所づくりとして、小学4年～6年生を対象に登録制で開設する。 (令和4年度 登録41名、延べ3,421名利用)</p> <p>小学1年～3年生対象の「放課後児童クラブ」と一体的に実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設283日間(月曜日～土曜日、午後6時まで) ・休日は、日曜・祝日・お盆・年末年始 ・指導員4名～児童クラブ指導員が併任 ・内容～児童が「自由に、自主的に過ごす」ことを基本とし、遊びや宿題などをして過ごす。施設から習い事等に行くこともある。学校指導主事が週1回程度出向き、学習指導を行っています。
内部評価	<ul style="list-style-type: none"> ○学校敷地内にあるという特性を活かし、子どもたちが安心して放課後を過ごせる場所を提供しています。 ○平日は50名ほどの利用があり、時間帯によっては施設が手狭に感じることもあります。 ○宿題(家庭学習)については、低学年も含め、児童クラブ・子ども教室に着いたらまず学習に取り組ませており、学習習慣の定着につながっています。 ○高学年の利用が増え、低学年の面倒をみながら一緒に宿題をしたり、遊んだりするような場面がほぼ毎日のようにみられます。

	○子どもどうしのトラブルなど、指導が難しい場面も見られますが、指導員による粘り強い指導を行っています。
--	---

評 価
B

外部評価	共働きの御家庭には、とても有難い施設だと思いますし、利用数が多いという事で、色々と創意工夫されていると思いました。
------	---

評 価
A

今後の課題と対応方針	<p>○多くの子どもが利用する中、子どもが安全に安心して過ごすことができる場所となるよう配慮します。</p> <p>○月例打ち合わせや研修参加を通じ、指導員や担当職員の情報共有と資質向上に努めます。</p> <p>○家庭で過ごす時間が短い子どもに対し、放課後学習習慣の定着やイベント等で様々な体験ができるよう指導に取り組めます。</p>
------------	--

領 域	図書館
取組の概要 と実施状況	<p>○新型コロナウイルス感染症の影響は徐々にではあるが規制緩和が進む等、制限の強度は和らいできたが、精神的な不安を一掃するほどの状況とはならず、貸出冊数は増加したものの今年もウイズコロナの1年でありました。</p> <p>○情報・資料の充実 資料費は新型コロナ対策臨時交付金や寄付金により本年も大幅に増額となり、資料全体で予定よりも充実した蔵書を進めることができました。 2か年計画で実施したアイヌ政策推進交付金事業が終了し、アニメ・絵本・紙芝居が完成しました。今後の活用が重要になります。</p> <p>○貸出サービスの充実 コロナ禍にあって臨時休館は無くなり貸出冊数や来館者数の増加に転じ、本来の対面サービスの重要性と利用者が求めている環境を肌で確認できる1年となりました。以前の慣例に捕らわれないサービス展開が求められると感じました。</p> <p>○視聴覚ホール利用促進 利用自粛が続いている感もあるが、結果としてほぼ利用はありませんでした。</p> <p>○子どもの読書活動推進 司書によるおはなし会・学校の朝読書支援や学校への授業等に係る本の貸出、小中学校・幼児センター(子育てサロンを含む)へ団体貸出図書館の事業等のほか、学校への定期的な訪問を実施しました。</p> <p>○利用の啓発とPR活動 月1回発行の町広報紙やおたより便、月毎の資料展示コーナーや特集コーナー、毎月発行の「新着図書案内」、さらにインターネット(図書館のホームページ)を活用した資料情報の提供を行いました。</p>
内 部 評 価	<p>○新刊情報などは町広報紙や図書館ホームページに掲載するなど周知を図っているが、閲覧数の把握とその効果を検証しなければいけないと考えます。それらを把握した上で視点を工夫しながらの取り組みが必要です。</p> <p>○視聴覚ホールの利用は、現状の利用方法と町民が求める内容にズレが無いかが考察し、夏季にはエアコン設備を利用したワークスペースとしての利用環境を提供するなど、映像鑑賞や講演に固執しない対応が必要です。</p> <p>○W i - F i 環境を活用した児童生徒の自習スペースや社会人のワークスペースとして、プライベートスペース提供を図っているが、徐々に利用者が増えてきており必要性を感じる。更なる利便性の高い環境整備が必要であります。</p> <p>○学校図書館の充実が課題であると考え、定期的な学校訪問など積極的な運営に参画しており、利用者増の現象も見えることから今後も長期的な視点での継続した取り組みが求められています。</p>

評 価
B

外部評価	<p>○幼少期からスマホやゲーム機等のデジタル機器を制限なく使用させる有害性や、読み聞かせや読書等の情操教育の重要性を、親や子供自身に知らせる機会を増やす事が、結果図書館利用の活性化につながるように思います。</p> <p>○コロナ感染への恐れはゼロではなく、感染対策もしつつ、館内の蔵書の配置の工夫等々、町民目線での沢山の努力を随所と感じました。</p> <p>○様似町内唯一の全世代利用できる施設として、今一層の努力を求めます。</p> <p>○利用者に配慮した環境整備と周辺の整備の維持管理が感じられる。</p>
------	---

評 価
B

今後の課題と対応方針	<p>○いつでも、どこでも、だれもが学べる場としての役割を發揮できるよう町民が求めているのは蔵書なのか空間なのか、他にもあるのかなど、様々な取り組みの中で感じながら進めなければなりません。</p> <p>時代に合ったサービス提供として、個で利用できるワーキングスペースや家庭学習ブースなど、場の提供を年度末から開始しニーズが見込まれることから、認知度を更に上げるとともに、リモート会議などに対応できる環境を早急の課題として取り組みます。</p> <p>○寄贈など含めて蔵書冊数の増加とともに除籍作業も並行して取り組みながら、「見やすい・利用しやすい」書架の整理を継続的に進めているが、職員が見やすい一方的な考えの提供にならないよう、利用者は何を求めているのかに細心の注意を払いながら、かつスピード感をもって取り組みます。</p> <p>○様似町子どもの読書活動推進計画の推進を図るため、学校との連携を密にして、学校連携図書システムのネットワーク化の機能を活かした有効的な活用と、学校図書館整備の継続した取り組みを進めます。</p> <p>○人口減少や少子化など即効性のある対策は難しいが、継続性による変化や好循環を信じて、利用者にとっての快適さを感じられる質の高いサービスが必要な時代であることから、図書（資料）の充実はもとより環境整備も含めたあり方を継続して探ってまいります。</p>
------------	---

④生涯スポーツの推進

領 域	青少年スポーツ推進「スポーツ機会の提供」
取組の概要 と実施状況	<p>○スポーツ教室の開催（剣道・柔道・ミバスケ・バドミントン・バレーボール） 新型コロナウイルスの対策を講じながら実施した。教室を体験した子は、少年団等に参加しており、継続的な活動のきっかけづくりができています。</p> <p>○スキー教室 教育委員会主催として、初めて実施。バスを借上げ、幕別町の白銀台スキー場で実施している。早い時期に申込みが定員に達し、数名お断りすることになった。</p> <p>○第45回アヒルロードレースの開催 新型コロナウイルスの感染対策として、事前の申し込みによる人数集約と、年齢によりスタート時間を分散して実施した。</p> <p>○スポーツ少年団「スポーツテスト会・スポーツフェスティバル」 新型コロナウイルスの感染対策を講じながら、従来どおり5種の運動適正テストを実施し、スポーツレクを行った。</p> <p>○幼児センター運動あそび「みらい塾」 幼児センター年中・年長クラスを対象に各クラス月1～2回運動指導を実施。合わせて21回実施した。</p>
内 部 評 価	<p>○新しい生活スタイルにあわせ、できる方法を模索しながら、実施することができた。アヒルロードレースにおいては、事前申し込みやスタート時間の分散対策により、スムーズな運営を行うことができた。</p> <p>○継続的に取り組んでいる幼児センター運動指導については、幼児センターからは、保育教諭以外の指導者が入ることにより子どもたちの運動の様子を見ることができるよう新しい気づきがあるとして、一定の評価をもらっている。</p>

評 価
B

外 部 評 価	<p>・今後の検討の余地はあるが、当初目的は十分達成できたと思う。</p>
---------	---------------------------------------

評 価
B

今後の課題と対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ教室は、競技によっては参加者が少数で実施できないケースがある。競技等を考える必要がある。 ○スキー教室は、希望者ができるだけ多く参加できるように指導者の確保を検討したい。 ○幼児センター運動指導は、楽しく運動に親しんでもらうきっかけづくりの提供をしながら、さらなる子どもたちの運動能力の向上を目指したい。
------------	---

領 域	成人・女性・高齢者スポーツの推進「スポーツ機会の提供」
取組の概要と実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ町民大会開催（成人対象） 11月20日（日）にテニポン町民大会を実施。 ○北海道テニポン選手権大会運営協力（成人対象） 新型コロナウイルス感染対策により中止。 （例年、北海道テニポン協会主催で実施） ○ヤングシニアスクールの開催（高齢者対象） 9月～3月の期間中全25回実施。
内 部 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ○様似テニポン協会の協力のもと、テニポン町民大会を初めて実施した。参加者が少数で、周知方法等の検討が必要である。 他の町民大会について、競技を含め検討が必要である。 ○ヤングシニアスクールは、小規模で参加者がほぼ固定されているため感染対策を講じた上で実施した。新規参加者も見られ、参加者の健康意識の高揚に大きく役立っている。

評 価
B

外 部 評 価	テニポン町民大会の開催は評価できるが、開催方法の検討が必要と思う。
---------	-----------------------------------

評 価
B

今後の課題と対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ町民大会は、町民がチームを編成し、申込みをしてもらうこととしていたが、周知方法や募集要項に課題がある。 広く町民が参加できるようなチーム編成と周知方法を検討する必要がある。 ○ヤングシニアスクールは、今後も高齢者の健康増進の一助となるよう継続実施する。
------------	--

領 域	スポーツ団体の育成
取組の概要	○様似町スポーツ協会への助言・協力 ○様似町スポーツ少年団本部への助言・協力
実 施 状 況	○様似町スポーツ協会は、事務局担当として運営に関わった。 ○スポーツ少年団本部は、事務局として全面的に運営協力した。
内 部 評 価	○各団体ともに現状の中で、できうる活動を精力的に行っているが、人材の不足により活動が困難になってきている面もみられる。 ○スポーツ協会は、各単協の弱体化と財源確保が課題であり、その対策として寄付金は文書による振込依頼としている。コロナ禍にありながら、想定以上の支援を得ることができた。

評 価
B

外 部 評 価	人材不足、財源不足で大変だと思うが、青少年のスポーツ育成のため頑張ってください。
---------	--

評 価
B

今後の課題と対応方針	○スポーツ協会は寄付金頼みの運営で、財政的に困窮しており、組織自体の改革及び存廃を含めた今後の方向性や、様似町としてのあり方を検討しなければならない。 ○スポーツ少年団の指導者制度の変更や少年団加入者の減少などの課題について、各団体と協議し連携を図り団体育成につなげる。
------------	--

領 域	広報・啓発の充実
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○様似町スポーツ表彰制度の充実 ○スポーツ安全対策の充実 スポーツ安全協会傷害保険の加入促進。 様似町スポーツ傷害見舞金制度の充実。 ○スポーツ情報の提供充実
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ表彰は4個人1団体を表彰した。 ○安全対策については、スポーツ安全協会傷害保険加入・請求に関わる事務処理及び指導を行った。 ○見舞金制度は該当者なし。 ○スポーツ情報の提供充実については、町広報紙を活用し、継続的に運動メニューの紹介を行った。
内部評価	<ul style="list-style-type: none"> ○町広報紙による運動紹介メニューは、若い世代向けのトレーニングメニューが主であり、広く町民が取り組める内容を検討する必要がある。 また、広報紙の紙面削減などの観点から、継続についても検討が必要。 ○各種周知はタイミングを逸しないように町民の立場に立った広報に努める必要がある。 ○新聞購読をしていない人(世帯)や自治会未加入も多くなっている点も考慮し、ホームページでの周知を行った。

評 価
B

外部評価	今後ともわかりやすい広報啓発をお願いします。
------	------------------------

評 価
B

今後の課題と対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツに関する情報提供・普及啓発については、自治会配布や町ホームページを効率的に活用するとともに、工夫を凝らした広報・啓発を行う。 ○様似町スポーツ傷害見舞金制度の必要性を検討する。
------------	--

領 域	スポーツ施設の設備充実・利用促進
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○様似町スポーツセンターの整備充実・利用促進 ○様似町第2体育館の維持・利用促進 ○様似町生涯スポーツ研修センターの整備充実・利用促進 ○観音山スポーツ公園の整備充実・利用促進 ○学校開放事業の充実・利用促進
実施状況	○各施設が安全に利用できるよう配慮し、利用者の立場に立った調整を図った。
内部評価	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルスの対策が徐々に緩和され、大会等が再開されてきたことで、利用者数は伸びている。 ○老朽化が進むスポーツセンターの耐震診断を実施した。結果は「耐震性がない」との判定であった。

評 価
B

外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツセンターの対応について、頑張ってください。 ・スポーツセンターだけではなく、スポーツ施設全般として整備について対応が遅い。悪い。計画的に考えていく必要がある。
------	---

評 価
B

今後の課題と対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ○学校開放事業は例年の流れの中で進めているが、利用団体等への指導を含めた円滑な運営を図る必要がある。 ○施設の老朽化は顕著であり、器具等故障による支障も出てきており、点検・整備・清掃を徹底し、安全性と利便性に努める。 ○スポーツセンターのあり方について、早急に検討を進め、今後の方向性を考える必要がある。
------------	--

「令和4年度事業 教育委員会点検・評価」外部評価委員名簿

氏 名	所 属 等
石 井 俊 祐	学校運営協議会委員 (幼児センター担当)
木 戸 夏 美	〃 (幼児センター担当)
坂 本 孔 美	〃 (幼児センター担当)
平 田 美智子	〃 (幼児センター担当)
佐々木 正	〃 (幼児センター・小学校担当)
岡 部 美 香	〃 (小学校担当)
幕 田 優 祐	〃 (小学校担当)
古 舘 泰 央	〃 (小学校担当)
中 川 剛	〃 (中学校担当)
高 橋 洋 子	〃 (中学校担当)
野 沢 浩 一	〃 (中学校担当)
畑 中 郁 子	〃 (中学校担当)
清 水 朱 美	様似町社会教育委員
池 田 美智子	〃
南 健 雄	〃
伊 藤 栄	様似図書館協議会委員
平 田 武 志	〃
石羽澤 幸 枝	〃
小 川 勝 己	様似町スポーツ推進審議会委員
石 井 栄 司	〃
藤 田 小百合	〃

令和4年度

教育行政執行方針

様似町教育委員会

令和4年度を迎えるにあたり、様似町教育行政執行方針について申し上げます。

近年、情報通信技術の高度化やグローバル化の加速度的進展、新型コロナウイルス感染症の克服など、生活や社会の劇的な変化への対応が求められる中、誰もが、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる環境を整える必要があります。

本町では、令和3年度からスタートした「第2次様似町教育大綱」の2年目となる本年度においても、「豊かな心と健やかな体を育む地域と連携した教育・文化のまち」の基本理念の下、学校と地域が連携・協働を深め、地域社会が持続的に発展できるよう、学びと社会参画の好循環を生み出し、地域活性化の原動力となる教育行政を着実に取り組んでまいります。

その具現化を図るべく、引き続き幼児センターから小・中学校までを通した1つの学校運営協議会を通じて、学校と保護者や地域の皆さんが知恵を出し合い、地域全体で協働しながら子どもたちの学びや成長を支える「コミュニティ・スクール」を推進し、子どもたちが夢や希望を実現できるよう支え合える体制づくりをさらに進めます。

本町の恵まれた自然や歴史をはじめ、貴重な文化を子どもたちが理解を深める取組を推進し、ふるさとへの愛着と誇りを持ち、地域の将来を担う意識を醸成するための環境づくりを進めてまいります。

幼児教育においては、生涯にわたる人格形成の基礎を培う役割を担っており、質の高い教育の実践を図る観点から、保育に携わる職員への研修等の機会を確保するとともに、小学校との連携とスムーズな接続がなされるよう強化を図ります。

義務教育においては、個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業改善、望ましい学習・生活習慣の確立、きめ細やかな指導の充実に取り組みます。

社会教育をはじめ体育・スポーツや図書館の生涯学習活動においては、地域住民一人ひとりの持つ資質や能力を高め、その力を地域活動に生かす「人づくり」、地域の課題解決や地域の活性化につながる「地域づくり」を進めます。

それでは、各分野における主要な方針について申し上げます。

幼児教育及び保育の推進につきましては

乳幼児期における教育及び保育は、子どもの健全な心身の発達過程に対応した保育環境のもと、自発的な活動の遊びを通し、心豊かな人間として生きていくための「生きる力」の基礎となる「資質・能力」を育み、また、健やかな発達を保障する中で学習能力の基本となる「学びに向かう力」を着実につける取組を進めてまいります。

幼児期において、遊びを通して育まれたことが小学校の学びにつながるよう、文部科学省が指針として示している「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえ、小学校との連携をさらに密にし、一人ひとりの子どもの育成状況の確認や職員の資質、能力を高めていくための研修会の合同開催などに努めてまいります。

さらに、小・中学校や地域と連携したコミュニティ・スクールの取組の中で出された意見を参考とさせていただきながら、特色ある教育・保育として、乳幼児期からの発達過程の重要性を踏まえ、全身を使った「運動遊び」や「リトミック」を通して体幹を鍛え、体力・運動能力の向上を図ることや、国際交流員(CIR)による「英語遊び」、文字や数に興味を持ってもらう「もじ・かず

タイム」を継続して取り組んでまいります。体験活動は子どもたちの五感を刺激するため、豊かな人間形成にとって重要であることから、様似の四季を通じて行う「自然体験(ジオ学習)」や地場産業に触れ、自ら体験する機会を設けることなど、そこに携わる地域や家庭の協力をいただきながら、豊かな心と郷土愛を育ててまいります。

現代社会において、デジタルメディアの使用が低年齢化している傾向にあることから、乳幼児における心と身体のバランスが崩れることがないように、家庭における基本的な生活習慣の確立や挨拶の習慣化、体力づくりを保護者と一緒になって定着を図り、健康的な心と身体づくりの情操教育に努めてまいります。

また、保護者が安心して子育てや仕事に従事できるように、認定こども園としての機能はもとより、各種行事や子育て支援事業の充実や情報提供を行っていくとともに、放課後児童施設「ひ・ま・わ・り」を活用し、安全・安心な環境の中での健全育成に努めてまいります。

学校教育の推進につきましては

社会全体が長期間にわたり、新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならない状況の中で、感染症対策と児童生徒の健やかな「学びの保障」の両立が求められています。

そのような時代を生き抜くために児童生徒に必要な資質や能力を身に付けることができるよう、より質の高い教育環境づくりに努めてまいります。

学力の向上につきましては、「全国学力・学習状況調査」と「標準学力検査」の結果を踏まえ、学力や学習状況の把握・分析と学習指導方法の改善を検証し、児童生徒の学力向上を図るため組織的な取組を推進してまいります。

児童生徒の実態分析に基づいた、きめ細かな学習指導を行うため、小学校での通級指導教室の効果的な運用と複数の教員による少人数指導を柱にした授業を継続してまいります。

また、中学校においては、道教委が進める「中1ギャップ問題未然防止事業」を活用し、加配教員の確保を図り、学習指導体制の充実を図ります。

特に、様似小学校と様似中学校を施設分離型の小中一貫校として位置付けてから6年目を迎えますが、教職員の兼務発令の

もと合同研修会などを通じて、教職員の経営参画意識を高め、小中一貫校としての認識を持って取り組むことができる体制をさらに強化してまいります。

また、小・中学校9年間の系統的・継続的な教育を行うための調査研究を実施するとともに、9年間を見通した学習のつまずきポイントの共通認識を積み重ね、学校種の垣根を越えた教職員による指導体制を図る「小中一貫相互授業」や小学校における教科担任制の導入等に力を注いでまいります。

また、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」にあって、児童生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す個別最適な学びと、協働的な学びを通して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、指導方法や指導体制の工夫改善を進め、学習活動の充実を図ってまいります。

ICTを活用した教育につきましては、子どもたちが情報技術を手段として学習等に利活用できるよう、各教科等においてICTの特性や利点を生かした授業内容の充実を図るとともに、教員のICT活用能力の向上に取り組んでまいります。

また、夏・冬休み期間中における小・中学生の学習サポート事業につきましては、高校生ボランティアの協力をいただき、

継続的な取組を推進し、児童生徒の学力向上を支援してまいります。

コミュニティ・スクールにつきましては、地域や保護者をはじめ、様似出身の浦河高校の生徒にも協議会運営に主体的に参画してもらい、より良い様似町型コミュニティ・スクールの安定的な継続に向けて、幼児センターから小・中学校までを1つの枠組みとした「学校運営協議会」を組織して、学校・家庭・地域が連携・協働する取組の充実を図ってまいります。

本町の自然や歴史・文化・産業などの教育資源を活用したふるさと教育として、「アポイ・ドリーム・プロジェクト」や「ふるさとアポイ学」を通じて、小・中学校 9 年間それぞれの場面で総合的な学習の取組を推進してまいります。

教職員の指導力向上については、個々の資質能力を高めるために体系的かつ効果的な教職員研修への参加を積極的に奨励してまいります。

また、新年度から学校や児童生徒に関する情報をデジタル化し教職員間で共有するための「校務支援システム」の導入を進め、教職員の事務負担の軽減と子どもたちの育みを教職員全体で見守り、きめ細やかな指導の充実を図ってまいります。

英語教育につきましては、政府による「グローバル化に対応した英語教育改革」を実施するために、子どもたちが英語で積極的にコミュニケーションを図ることができるよう努めるとともに、中学生が「英語検定」を受験する際には、受験料の助成を引き続き行なってまいります。

本町においては、外国語指導助手（ALT）を小・中学校にそれぞれ1名ずつ配置しておりますので、その外国語指導助手を効果的に活用し、子どもたちが異文化への理解を深めるとともに、英語を通してコミュニケーション能力を高めることができるよう外国語教育のさらなる拡充に努めてまいります。

特別支援教育につきましては、児童生徒の可能性を伸ばし、自立や社会参加に必要な力を育むなど、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導や支援に取り組むとともに、切れ目のない一貫した教育が行われるよう円滑な学びの体制の充実を図ってまいります。

いじめや不登校への対応につきましては、道徳教育を通じて、望ましい人間関係を築く力を育むとともに、いじめの積極的な認知と組織的な対応、不登校児童生徒への初期段階から組織的・計画的な支援を進めてまいります。

防災教育につきましては、地震や津波、台風などの自然災害から、自らの安全を確保できる児童生徒を育てるために、役場防災担当部局と連携を図り、小中学校において「1日防災学校」を引き続き実施してまいります。

昨年度から導入した「様似型スクールランチ」については、アレルギー対応など充実した形を模索し、児童生徒に栄養の整った食事を安定的に提供するとともに、家庭での弁当調理の負担軽減を図ります。

また、新年度から小中学校において、「ミルク給食の無償化」を実施し、児童生徒の栄養バランスを整え、健やかな身体の育みをサポートするとともに、家庭での経済的な負担軽減を図ります。

高等学校においては、新年度から新学習指導要領が段階的に実施され、新入学生徒からパソコンを活用した授業が行われます。それにより、パソコンを個人で所有することが必須条件となることから、その購入費用の一部を助成いたします。

社会教育の推進につきましては

町民の皆様が心豊かな生活を送り、住みよいまちづくりに取り組むことができるよう、それぞれの興味・関心をとらえ、多様な学習機会の提供や町民の自主的な学習活動の支援をしてまいります。

地域全体で子どもたちの成長を支える「地域学校協働活動」は、コミュニティ・スクールの取組と連携し、学校教育支援活動の充実など、町民のかかわりを一層広げます。

学校教育活動を地域で支える「学校支援ボランティア」や「放課後子ども教室」、「地域の人材を活用した教育支援活動」においては、幼児から成人・高齢者まであらゆる世代の町民が参加し、町民のさまざまな活動の積み重ねを有効に活用することにより、さらに豊かな学びとなる、学びの好循環が生まれるような事業展開を図ります。

少年教育につきましては、本町の特色ある自然・歴史・文化といった地域の教育資源を活かし、多様な人々とふれあう体験活動を通して、自主性や愛郷心、豊かな人間性を育み、防災意識の向上にも取り組みます。

高齢者教育につきましては、各地区の高齢者学級による学習

活動を支援するほか、シニア世代が気軽に参加できる学習機会を提供し、学びと生きがいがいづくりにつなげてまいります。

成人教育につきましては、市民の幅広い興味・関心に応えることのできる講座等を実施してまいります。

青年・女性教育につきましては、各団体の自主的な活動を支援し、活性化を図るとともに、公民館を拠点に多様な市民が集い学びあふ事業を推進してまいります。

郷土館活動につきましては、郷土資料の収集と保存・整理に努め、本町の特色ある歴史・文化財を活かした学習機会の提供を図ってまいります。

アイヌ文化の振興につきましては、「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律（アイヌ施策推進法）」の理念にのっとり、文化保存団体の活動支援や、小・中学校や市民向けの学習・鑑賞機会の提供、関係資料の整理保存など、文化の保存・継承と活用に取り組みます。

国のアイヌ政策推進交付金を活用し、PR動画制作や、元道立岡田尋常小学校の教師で、当時の学校やアイヌの生活に関する多くの資料を残した熊崎直平氏なおへいに関する資料の調査及び目録の作成を実施します。

芸術・文化活動につきましては、公民館を拠点に活動する文化協会等の各種団体に対し活動支援を行うとともに、本年は様似町開基 220 年・町制施行 70 周年を迎えることから、これを記念し町民向けの文化鑑賞事業等を実施するなど、町民の文化振興を図ってまいります。

図書館活動の推進につきましては

「様似町第二次子どもの読書活動推進計画」の基本理念であります「すべての子どもたちが自主的に読書活動を行うことができる環境づくり」のため、赤ちゃんと絵本を開く大切さや楽しさを伝えるブックスタート事業の充実や、学校図書館の効果的な活用を図るために、蔵書の整理・更新を継続し、司書の専門性を生かした調べ学習の補助を積極的に推進いたします。

また、読書の楽しさを感じられるよう、独立館としての開館 30 周年記念事業や出張貸出、おはなし会、読書通帳の活用などに取り組むとともに、2 力年計画の 2 年目となるアイヌ政策推進交付金を活用した「ふるさと絵本・紙芝居・アニメーション制作」事業の実施など、様似町の文化・歴史を知るための事業展開を図り、より深い学びを提供できる環境整備を進め、町民の様々な

世代のかたがたに役立つ図書館をめざしてまいります。

スポーツの推進につきましては

スポーツの実践は、心身の健康という効果をもたらし、町民の皆様が健やかに生き生きと暮らせるまちづくりに欠かせないものです。新型コロナウイルス感染症の影響により活動に制約がある場合もありますが、適切な対策をとりながらスポーツに取り組むことができるよう、その環境づくりに努めてまいります。

生涯スポーツの基礎となる青少年スポーツでは、幼児期の遊びを通じた運動教室を引き続き進めるとともに、スキー・スケートといった冬季スポーツも含め、スポーツ教室の開催などを通じ様々なスポーツにふれる機会の提供を推進してまいります。

成人スポーツにつきましては、町民が気軽に参加できる「町民スポーツ大会」を開催し、町民が継続的にスポーツに取り組める機会の提供に努めるほか、個々で楽しむことができるトレーニングが幅広い年代層への広がりが進んでいることから、スポーツの定着化につながるプログラムの提供やスポーツ団体の運営支援を行います。

高齢者スポーツにつきましては、コロナ感染予防のために外出

を控えるなど、引きこもりになりがちな状況にありますが、気軽に取り組めるプログラムである「ヤングシニアスクール事業」の開催を通して、身体を動かす楽しさを体感できる事業を推進してまいります。

スポーツ活動の拠点である各スポーツ施設につきましては、新型コロナウイルス感染対策の徹底を図った上での安全面の確保や運営面の工夫が求められますので、変化に対応した適切な維持管理と利便性の向上に努め、開館 50 年を迎えるスポーツセンターをはじめ、老朽化した施設の今後のあり方について検討してまいります。

以上、令和 4 年度の教育行政の各分野における主要な方針を申し上げました。

これまで当たり前だった日常が大きく変わり、先を見通すことが困難な時代、様々な教育課題に的確に取り組むとともに、学校・家庭・地域との連携を一層深め、様似町の教育の発展と子どもたちが次の時代を創り担っていくための力を身につけることができるよう一つ一つに心を置いて、町民の期待と信頼に応えられ

る教育行政を推進してまいります。

町民の皆様、町議会の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。